

— 経営理念 —

ともに挑み ともに繋ぐ

常にお客様目線で上質な価値を創出する

— 行動指針 —

私たちは、全ての仲間と手を取り合い、
創出する喜びを分かち合います。

私たちは、失敗を恐れず、
常にチャレンジャーであり続けます。

私たちは、お客様と誠実に向き合い、
信頼される存在を目指します。

私たちは、こだわりと思いやりをもって、
心地良さの実現を追求します。

私たちは、法とその精神を守り、
安心・安全なものづくりを約束します。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月に開催

基準日	定時株主総会の議決権	3月31日
	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日

公告方法 電子公告
 公告掲載URL <http://www.fkkasei.co.jp>
 ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告
 できない場合は、日本経済新聞

単元株式数 100株

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 0120-782-031 (フリーダイヤル)



Business Report

第109期 報告書

2019年4月1日～2020年3月31日



Segment Review

(単位：百万円)

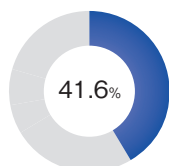
コーティング事業



主要分野

自動車内装分野、自動車外装分野、
自動車電装部品分野、
容器関連分野、携帯電話分野、
家電分野、ホビー分野、
農業資材分野

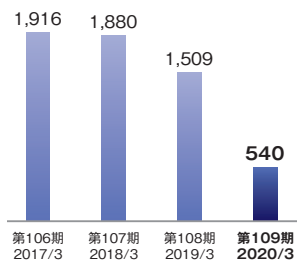
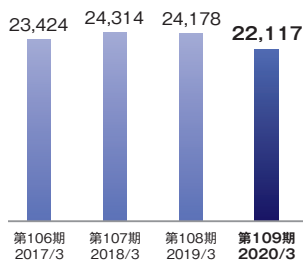
プラスチック用コーティング材を取扱うコーティング部門におきましては、主力の自動車向け分野での需要が国内市場、海外市場ともに低調に推移いたしました。スペシャルティコーティング分野ではホビー用塗料の需要は堅調に推移しましたが、化粧品容器用塗料の売上が低調に推移し売上高は前年度をやや下回りました。



売上高構成比

売上高
221億1千7百万円
(前連結会計年度比8.5%減)

セグメント利益
5億4千万円
(前連結会計年度比64.2%減)



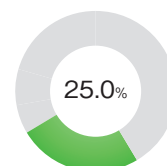
塗料事業



主要分野

外装建材分野、
内装建材分野、
エクステリア材分野、
住宅設備分野

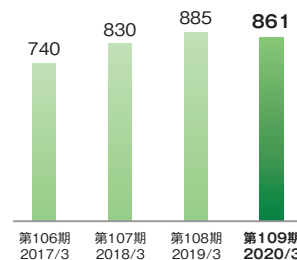
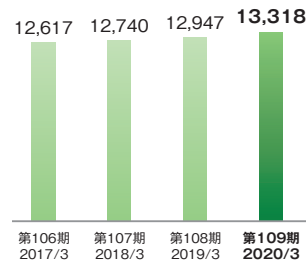
建築用塗料を取扱う塗料部門におきましては、新築住宅向け市場の需要が堅調に推移いたしました。一方、リフォーム向け市場では消費税や台風19号の影響により需要が低調に推移いたしました。



売上高構成比

売上高
133億1千8百万円
(前連結会計年度比2.9%増)

セグメント利益
8億6千1百万円
(前連結会計年度比2.7%減)



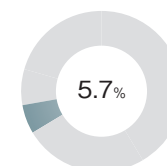
電子材料事業



主要分野

通信機器分野、
表示体分野、
家電分野、
車載用電子機器分野、
OA機器分野

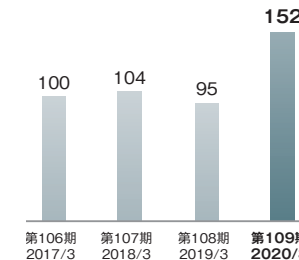
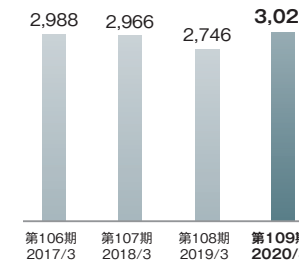
導電性ペースト材(『ドータイト』)などを取扱う電子材料部門におきましては、海外でのパソコン向け市場の需要が堅調に推移した結果、売上高は増加いたしました。



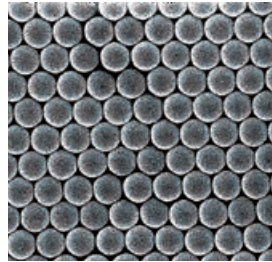
売上高構成比

売上高
30億2千万円
(前連結会計年度比10.0%増)

セグメント利益
1億5千2百万円
(前連結会計年度比59.3%増)



化成品事業

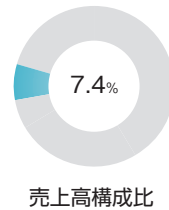


主要分野

トナー用樹脂分野、
電荷制御剤分野、粘・接着剤分野、
ディスプレイデバイス分野、
メディカル材料分野、
電子部品関連分野

『アクリベース』の商品名で販売する機能材料やトナー用レジ、メディカル材料などを取扱う化成品部門におきましては、粘着剤などを取扱う機能材料分野では、壁紙向け粘着材の需要が堅調に推移いたしました。

トナー用レジを取扱う化成品分野では、国内市場の需要は落ち込みましたが、海外市場での需要が堅調に推移いたしました。



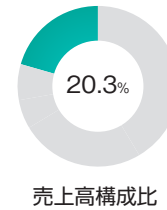
合成樹脂事業



主要分野

高機能光学材料分野、
工業用銘板分野、
産業資材分野

子会社藤光樹脂株式会社などが取扱うアクリル樹脂の原材料・加工品の販売におきましては、カーエレクトロニクス分野向けの製品の売上は堅調に推移しましたが、新型商品の良品率が上がり収益が圧迫されました。また、液晶テレビ向け製品の需要は低調に推移いたしました。



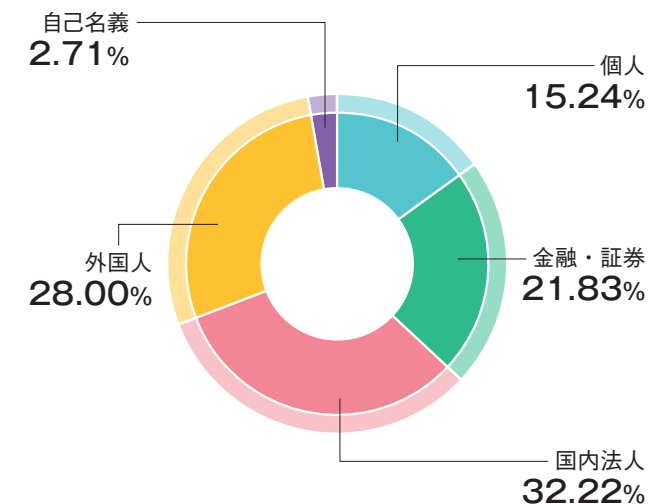
会社概要 (2020年3月31日現在)

会社名 藤倉化成株式会社
本店所在地 東京都板橋区蓮根三丁目20番7号
本社事務所 東京都港区芝公園二丁目6番15号
設立 1938年9月22日
資本金 53億5千2百万円
従業員数 連結 1,283名
単体 428名
連結子会社数 国内 4社 海外 15社
ホームページ <http://www.fkkasei.co.jp>

株式の状況 (2020年3月31日現在)

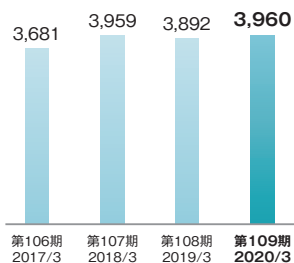
発行可能株式総数 84,000,000株
発行済株式の総数 32,716,878株
株主数 3,448名

株式の所有者別分布状況



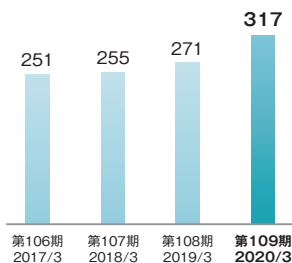
売上高
39億6千万円

(前連結会計年度比1.7%増)



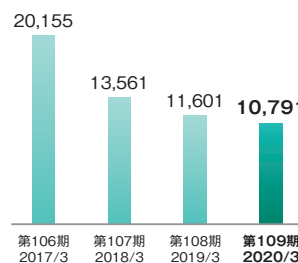
セグメント利益
3億1千7百万円

(前連結会計年度比16.7%増)



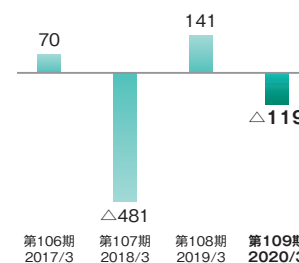
売上高
107億9千1百万円

(前連結会計年度比7.0%減)



セグメント損失
△1億1千9百万円

(前連結会計年度比 -)



To Our Shareholders

株主の皆さまへ

株主の皆さまには格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
当社第109期（2019年4月1日から2020年3月31日まで）
の営業概況等につきご報告申し上げます。

2020年6月

当連結会計年度におけるわが国の経済は、当初は設備投資の増加や所得・雇用環境の改善により緩やかな回復基調で推移しておりました。しかし、2019年11月に発生した新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により景気は大幅に下押しされており、今後も予断を許さない状況が続くものと思われます。

海外におきましても、新型コロナウイルスにより各国の経済活動が大きな影響を受けており、この状況は今後も続くものと思われます。

このような環境の下、当連結会計年度の売上高は531億7百万円（前連結会計年度比3.8%減）となり、営業利益は17億5千万円（同39.7%減）、経常利益は19億9千万円（同37.2%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は12億3千5百万円（同39.3%減）となりました。

今後の経済見通しにつきましては、国内、海外ともに新型コロナウイルスの感染拡大の影響により世界的な経済活動が停滞しており、現時点では収束時期の見通しも立っておらず、引き続き予断を許さない状況が続くものと思われます。

当社グループにおきましては、コーティング事業におけるグローバルな事業展開を加速させており、米国、欧州、ASEAN諸国、中国及びインドにおいて現地法人を設立し、「藤倉化成グローバルネットワーク」として、製品の供給体制網の整備を行っております。

更なる生産体制の強化を図るため、ベトナムで進めておりました自社工場建設用地の取得が完了し、インドネシアにおきましても新たな工場用地の購入を決定いたしました。今後も供給体制の整備に努めてまいります。

国内におきましては、当社のメイン工場である佐野事業所のリニューアルを進めており、生産体制の強化、生産効率の向上を図ってまいります。

今後も株主の皆さまやお客様の信頼に応え持続的な成長を遂げられるよう製品の供給体制と技術開発に注力していく所存です。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

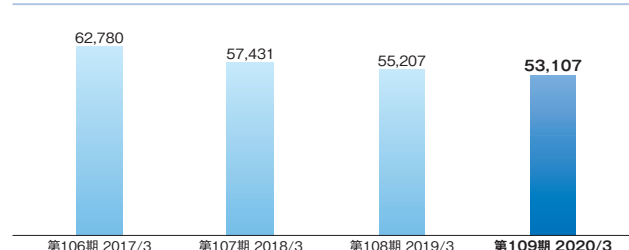
代表取締役社長 **加藤 大輔**

Financial Highlights

連結財務ハイライト

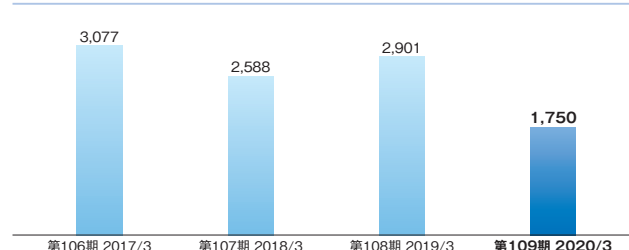
売上高

（単位：百万円）



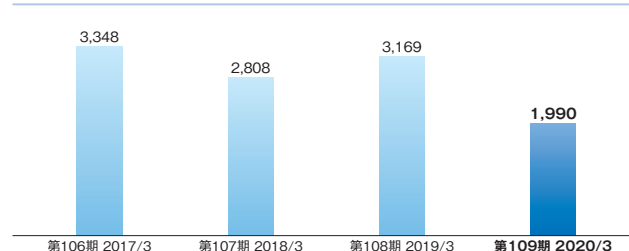
営業利益

（単位：百万円）



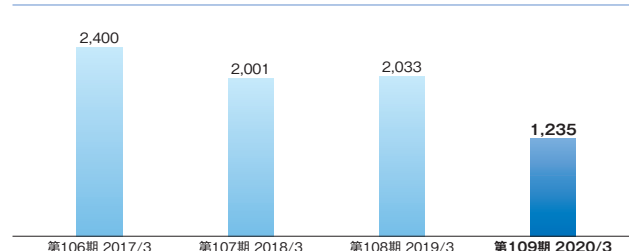
経常利益

（単位：百万円）



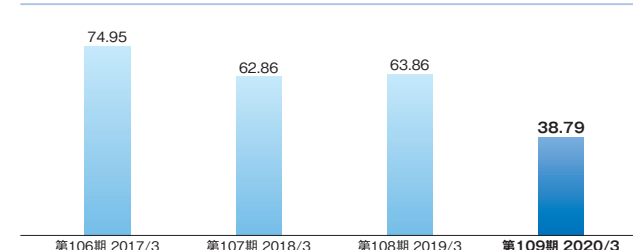
親会社株主に帰属する当期純利益

（単位：百万円）



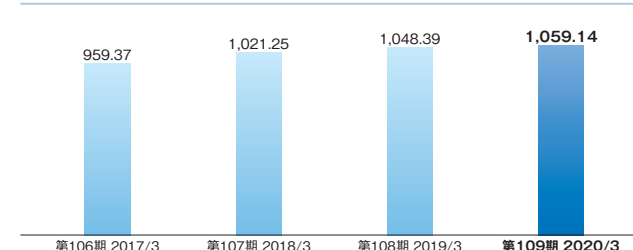
1株当たり当期純利益

（単位：円）



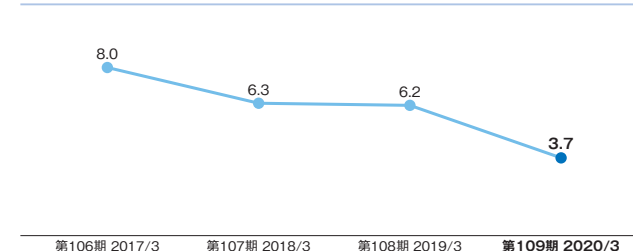
1株当たり純資産額

（単位：円）



自己資本利益率（ROE）

（単位：％）



総資産事業利益率（ROA）

（単位：％）

